

HyAS & Co.

Hyper Asset Solutions

2020年4月期

決算説明会レポート

- 1. COVID-19の影響について
- 2. エグゼクティブ・サマリー
- 3. 2020年4月期の決算状況
- 4. R+house事業の状況
- 5. 2021年4月期・業績予想

サマリー

1. COVID-19の影響について

- 2020年4月期業績への影響…経常利益が約2.5億円予想より減少
- 2021年4月期業績への影響…経常利益約2.1億円の押し下げを織り込み
- アフターコロナを見据えて、マーケティング活動や商品開発をおこなっていく

2. エグゼクティブ・サマリー

3. 2020年4月期の決算状況

- ロイヤルティを中心に伸長し前期比で増収も、災害やCOVID-19の影響を受け、営業利益/経常利益は下振れ
- 売上高 79.2億円（前期比+18.2億円、予想比 - 4.8億円）
営業利益 1.9億円（前期比 - 2.2億円、予想比 - 2.3億円）
経常利益 1.8億円（前期比 - 2.3億円、予想比 - 2.0億円）

4. R+house事業の状況

- 自然災害やCOVID-19の影響により初期導入フィーが減少したが、前期比で増収
- 受注数は消費税増税の影響を受けたものの、その影響は抑えられた
- コンサルタントの支援力を強化中

5. 2021年4月期・業績予想

- 売上高 84.3億円（前期比+5.1億円）
営業利益 3.1億円（前期比+1.2億円）
経常利益 2.8億円（前期比+1.0億円）

2020年4月期 決算補足説明資料



代表取締役の濱村です。

まずは、本来でしたら、決算説明会という形で説明すべきことを、このような動画での配信になってしまうことをお詫び申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、説明会を自粛することが重要と判断し、このような形式とさせていただくことにしました。

このような動画形式になってしまいましたが、本日は、2020年4月期の決算数値の説明をまずおこない、その後、今後3年間の中期経営計画について説明させていただきます。

1. COVID-19の影響について



まず冒頭に、新型コロナウイルスに対する当社の影響に関して説明させていただきます。

業績に対する影響



まず、業績に対する影響です。

この3月以降は、営業活動の自粛により新規顧客開発をおこなうことができず、その結果、20年度の経常利益が予想より約2.5億円減少する結果となりました。

また、21年度に関しましても、この5月末まで緊急事態宣言下であったことや、10月頃まで会員企業も受注が減少する前提で、約2.1億円経常利益が下がることを織り込んで、予算を組んでおります。

アフターコロナも含めた今後の対策(1)

アフターコロナも含めた今後の対策(1)

※本誌が所載する事項ともに、住宅・不動産業界におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）を加速化させていき、会員企業及び当社の業績アップを目指す

当社 ↔ 会員企業	期待できる効果
オンライン研修（ライブ配信）の対象拡大	会員企業へのノウハウの浸透 DXの推進により研修の多岐化により、会員企業がさらに一歩進出しやすくなることで、企業価値向上へのインパクトを期待できる。また、先住社員育成にも有効。
オンライン・コンサルティングの対象拡大	コンサルテイング内容の充実 単発ではなくTVCMなどにより、コンサルタント特長に強みをもったソリューション型コンサルティングの提供（相談の質・数量の向上）に期待できる。

エンドユーザー ↔ 会員企業・当社	期待できる効果
建築家とのオンライン面談の拡大	全国の建築家への発注が容易（日程の調整など）になり、よりエンドユーザーのニーズに沿った建築家を紹介できるようになる。
FPH相談、相続相談、住宅購入相談などのオンライン化	手軽に各種相談を受けられることにより、その後のビジネスの受注率アップ。

HyAS&Co. (C) HyAS & Co. Inc. All Rights Reserved. 6

営業や外出自粛の環境下の中、当社では、研修や会員企業への支援活動をオンラインに切り替え実施してきました。

今後もこのオンライン研修やオンラインでの経営コンサルティング支援は継続し、さらに対象を拡大していく予定です。

また、エンドユーザーと会員企業間のオンラインによる面談手法や営業手法を確立し、それを会員企業にむけた営業研修に組み込んでいきたいと考えています。

アフターコロナも含めた今後の対策(2)



また今回、ステイ・ホームということで、新たな需要が生まれてきたことを感じています。

例えば、テレワークをするスペースが必要という声や、都市部のマンションより郊外の戸建のほうが良いという声も聞こえてきています。

当社は、すでにユーザー調査もおこなっていますが、こういったニーズの変化に迅速に対応し、今後の商品開発やマーケティング活動につなげていこうと考えています。

2. エグゼクティブ・サマリー



では、決算の概要を説明させていただきます。

決算ハイライト

決算ハイライト

2020年4月期 PLサマリー/2021年4月期予想

	2020年4月期 実績	前期比	予想比	2021年4月期 予想
売上高	79.2億円	+18.2億円 (+29.9%)	-4.8億円 (-5.7%)	84.3億円
売上総利益	42.9億円	+3.5億円 (+8.8%)	-4.4億円 (-9.4%)	46.9億円
営業利益	1.9億円	-2.2億円 (-53.5%)	-2.3億円 (-53.8%)	3.1億円
経常利益	1.8億円	-2.3億円 (-55.7%)	-2.0億円 (-52.5%)	2.8億円
当期純利益	0.2億円	-2.2億円 (-90.3%)	-1.8億円 (-88.9%)	1.3億円

・ R+house本部事業を中心に
ロイヤルティ等が伸長する
も、災害やCOVID-19の影響
を受け、前期比で増収減益

・ 予想比では、営業利益/経常
利益が予想を下回る

・ 末期は、売上高 84.3億円、
営業利益 3.1億円、
経常利益 2.8億円を見込む

20年度の売上高は79.2億円、営業利益1.9億円と前年に対して増収減益となりました。

これらは、主にR+houseを中心にロイヤルティ収入を伸ばしたものの、19年秋の台風や新型コロナウイルスの影響を受けての減益となっています。

3. 2020年4月期の決算状況



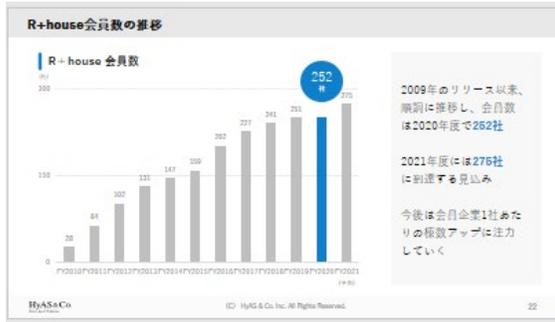
次に決算の予想比、販管費の説明なのですが、こちらは資料に詳細を記載しておりますので、のちほどご覧いただければと思います。

4. R+house事業の状況



次に当社の主力事業でありますR+houseの状況について説明させていただきます。

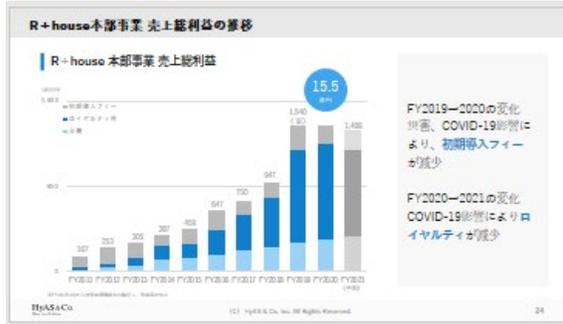
R+house会員数の推移



当社の主力事業のR+houseですが、順調に会員数が増加しており250社を超えております。

今後は各会員企業に対するサポートを充実させ、会員企業1社あたりの棟数アップを目指していこうと計画しております。

R+house本部事業 売上総利益の推移



当社は売上高ではなく売上総利益でマネジメントしていますので、売上総利益で説明させていただきます。

R+house事業の売上総利益は、今まで順調に増益を続けてきたのですが、20年度は台風や新型コロナウイルスの影響で初期導入フィーが予想より減り、売上総利益は前期比で若干のプラスとなりました。

また、21年度も引き続きコロナ禍の影響により受注数が減ることを織り込んだ保守的な予想としました。

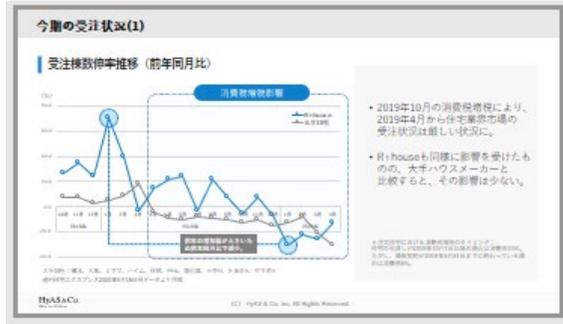
マーケット全体のトレンドとR+houseの受注数



R+houseの受注数についてですが、20年度の前期比の減少理由は主に消費税増税の影響です。そして21年度はコロナ禍の影響があると保守的に読んでいきます。

しかし、オンラインによる面談や研修などの成果が出始めていることや、新築戸建市場は縮小傾向であるにも関わらず、建築家住宅市場は伸びている状況もあり、21年度もここまで悪くならない可能性があるのではないかと考えています。が、予想としては保守的な数値としています。

今期の受注状況(1)



20年度はコロナ禍というかつてない状況がおき、消費税増税の影響についての報道は少なくなりましたが、住宅業界は消費税増税によって非常に厳しい市況となりました。増税前の駆け込み需要の反動が影響したわけです。

特に大手ハウスメーカーは多少なりとも影響がでているようです。そのような状況下でR+houseも影響があったものの、増税の影響はかなり抑えられたと思っています。

スライド27：今期の受注状況(2)

今期の受注状況(2)



また、各会員企業の受注実績をみますと、全体の9割の会員企業はほぼ前年比で受注棟数は増加、またはほぼ変化なし、でした。

今後も、のちほど中期経営計画の中で詳しく説明を致しますが、各種施策を展開していくことで、R+houseをさらに伸ばしていくことができると思っています。

5. 2021年4月期・業績予想



次に業績予想です。

2021年4月期の通期予想

項目	2020年4月期 実績	2021年4月期 通期予想	増減	
	2019/5/1~2020/4/30	2020/5/1~2021/4/30	金額	比率
売上高	7,921	8,430	+509	106.4%
売上原価	3,038	3,350	+312	101.1%
売上総利益	4,292	4,690	+398	109.3%
販売費及び一般管理費	4,098	4,380	+282	106.9%
営業利益	193	310	+117	160.6%
経常利益	183	280	+97	153.0%
特別損益	-24	-	+24	-
親会社株主に帰属する当期純利益	23	129	+106	560.9%
親会社株主に帰属する当期純利益率	0.3%	1.5%	-	-

2021年4月期予想

売上高 84.3億円
(前期比 +5.1億円)
営業利益 3.1億円
(前期比 +1.2億円)
経常利益 2.8億円
(前期比 +1.0億円)

こちらが、21年度の業績予想になります。

売上高は5.1億円プラスの84.3億円、
営業利益で1.2億円プラスの3.1億円を予想しております。

こちらは、この5月以降のコロナ禍に関する影響も織り込んだ
数字となっています。

配当の基本方針及び、2021年4月期の配当予想について

配当の基本方針及び、2021年4月期の配当予想について

配当の基本方針

- ・株主の皆様への利益還元機会を充実させるため、年2回の配当を実施
- ・配当性向は、30%を目安

2020年4月期の配当実績

- ・中間配当：1.9円 + 期末配当：1.9円（配当性向37.2%）

2021年4月期の配当予想

- ・中間配当：0.85円 + 期末配当：0.85円（配当性向30.8%）

※自然災害、COVID-19という特殊要因があったが、配当の安定性を重視し、年初計画の配当額を据え置いた

HyAS&Co.

(C) HyAS & Co. Inc. All Rights Reserved.

34

最後に配当に関してです。
基本的に配当性向30%としていますが、今回はコロナ禍などの特殊要因があったものの、当初、株主の皆様にお約束した金額を守ることにしましたので、配当性向としては高くなっています。
21年度に関しましては、配当性向を30%としています。

今期はコロナ禍の影響で厳しい数値になってしまいましたが、これを乗り越え、さらに成長できるように、中期経営計画を策定しましたので、次はその説明をさせていただきます。